

千葉市議会議員

ふくだに しょうこ

福谷章子の 街づくり通信



2011年3月 災害と情報
編集発行：福谷章子(無所属)

福谷章子の日記(ブログ): <http://fukutani.blog.ocn.ne.jp/blog/>

メールアドレス: fukutani2903@gmail.com

千葉市緑区おゆみ野 3-40-8 河野ビル 213 TEL&FAX:043-312-2903

震度5止まらぬ余震 落ち着いて冷静な行動を

11日に発生した東日本大震災は、マグニチュード9という規模と大津波によるかつてない大災害です。千葉市内においては、美浜区で液状化による道路への冠水や断水、傾いた家屋などがあるものの、緑区では大きな被害は無かったようです。しかし、いまだに続く余震や原発事故に不安を感じたり、被災地域の友人や知人の安否に心を痛めている方々も多いのではないのでしょうか。一方、物資の買いあさりや、不確かな情報流布などにより、二次災害ともいえる事態を自ら招かぬような配慮も必要です。私たち自身の身を守りながら、被災地のためにできることを、ともに考えましょう。

初期対応は身の安全の確保

- 非常時には、**親と離れている子どもの安全**が何より心配です。市では、保育所や保育園、子どもルームや子ども交流館にいる子どもたちの状況をただちに確認し、全員無事であることと24時間体制で預かることをホームページやツイッターでいち早く発信しています。
- 帰宅困難者に対しては、公共施設を解放し、特に千葉駅周辺では利用者が多かったとのこと。
- 緑区役所では、11日の夜には約60人の方々が不安だからと集まり、職員が対応していました。

必要なのは正確な情報

このような状況になった時、大切なことは正確な情報です。たとえば地震発生後間もなく、工場火災によって有害物質が降り注ぐ、新たな地震が起きるから逃げて、放射線には昆布が良い・・・など、出所不明な不確かな情報が出回り、不安感を増幅しました。どこの誰からの情報か、科学的根拠はあるのかなどを考え、心配な時は発信源に問い合わせしてみましょう。

千葉市では熊谷市長のツイッターでのタイムリーな発信によって、市の対応や他地域の状況を把握することができたことは初期の混乱を防いだと言えます。その後、千葉市の公式ツイッターもできました。利用者がまだ数少ないツイッター情報をどのように広げるかは今後の課題です。

千葉市広報のツイッターアドレス http://twitter.com/Chiba_city_PR

熊谷市長のツイッターアドレス http://twitter.com/kumagai_chiba

千葉市よりお知らせ

粗大ごみ収集の受付は16日で一時停止します。自己搬入は通常通りです。

千葉市立小・中・特別支援学校では原則として、牛乳及びパンの給食を今年度の給食終了日まで行います。なお、米飯については各学校の判断です。なお、停電やその他事情により提供できない場合は給食の提供を中止します。

【計画停電が始まった】

震災で停止する発電所が相次ぎ、電力の供給能力が大きく不足するために、東京電力では計画停電を3月14日から開始しています。さて、この計画停電、なかなか計画通りには進みません。そのための苦情や問い合わせも相次いでいますが、そもそもこの手法は、実害を少なくし、丁寧に行っていくとする神業のような手法なのです。三日間全県一斉停電！とした方が簡単なのですが、それでは混乱の極みです。初日は停電を回避しても、想定電力需要4,100万kwに対して実績需要は2,800万kwでした。製造業が操業できないことにも起因していると思われます。原子力発電の深刻な問題も起きており、計画停電を行わざるを得ないでしょう。電気に頼り過ぎた私たちの生活スタイルを見直していくことは、今後の社会的な課題であり、被災された人たちに思いを馳せて着実に長期にわたって支えていかなければと思います。

おゆみ野地域は、**第1グループ**に属していますが、おゆみ野4丁目、おゆみ野中央8丁目、おゆみ野南6丁目の一部は、**第2グループ**です。

ご不明な点は東京電力に直接お問い合わせください。

東京電力(株)千葉カスタマーセンター 0120-995-552

街のスケッチ

移動はどうしていますか？

計画停電が始まった頃は、JR外房線や京成千原線も運行を休止し、マイカーで移動するしかなく交通渋滞が発生しました。不要不急な車での外出は控え、自転車や徒歩への切り替えが可能かどうか一考しましょう。その際、車より自転車、自転車より歩行者という、より弱者への配慮も忘れずに。

ガソリンスタンドに長蛇の列

14日には一時的にガソリンが不足し、近隣のガソリンスタンドが閉店しました。そして15日には街中に給油を待つ車の長蛇の列です。道路渋滞によって輸送機能がマヒしているためにスタンドへのスムーズな補給体制が崩れていますが、これは長期にわたるものではありません。被災地で最も不足しているのは燃料とのこと。一両日待てるのであれば、外出を控える、自転車に乗り換えるなど一人一人が少しずつ我慢できたらいいですね。

お買い物はほどほどに

スーパーマーケットやコンビニからも商品が一斉になくなりました。非常時に備えての食料や物資補給をしなければという気持ちは理解できます。しかし、その品物が本当に必要かどうか、ちょっと考えてみましょう。商品は日々店舗に配送されます。今少ないのは輸送ルートが混み合っていることと一時的な需要が殺到しているから。その一因は、私たちの強迫感にあるかもしれない。

今、私たちが抱えこんだ物資は被災地に回せたかも・・・と想像してみませんか。

地域でも救援の動き ~おゆみ野チャペルの取り組み~

おゆみ野チャペルでは、すでに4便のトラックで救援物資を輸送しています。自治体間の輸送も始まりましたが、現地では仕分けする人手も配達する燃料もなく大量の物資が溜まってしまいます。小回りが利き、受取先がはっきりしている民間のサポートも必要です。衣類は十分集まりましたが、不足しているのは燃料と食料品です。ご協力いただける方は、直接事務所までお届けいただくと助かります。お問い合わせはお電話でTEL:043-312-2903 事務所開所時間 10:00~17:00